






病害虫発生予察情報予報第9号(1月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}		1月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫(抜粋)
			平年比	前年比		
タマネギ	べと病	早生マルチ	並	並	260~263	 腐敗病
		中晩生	並	並		
<p>1. べと病 罹病株は速やかに抜き取り、圃場外へ持ち出して処分する。</p> <p>2. 腐敗病 発病株は速やかに抜き取り、圃場外へ持ち出して処分する。病原細菌は、強風や農作業等によって生じた傷口から主に感染するため、強風雨や降雹等の前後には、薬剤防除を行う(令和2年11月16日付け病害虫対策資料第9号参照)。</p>						
施設果菜類	<p>1. 病害全般(灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病) こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内の結露を防ぐ。また、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を組み合わせる防除を行う。</p>					
イチゴ(本圃)	ハダニ類		多	多	211~212	 ハダニ類
	うどんこ病		やや少	並	201~203	
	灰色かび病		やや多	やや少	204~205	
	アブラムシ類		多	多	216~217	
<p>1. ハダニ類 依然として平年より発生が多い状況が続いている。薬剤防除の際は、5~7日間隔で系統が異なる薬剤を組み合わせる。また、天敵を放飼した圃場であっても、ハダニ類の増加を認めた場合は殺ダニ剤による防除を行う。(令和2年11月25日付け病害虫発生予察注意報第4号参照)。</p> <p>2. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 薬剤散布を行う際はミツバチの巣箱を圃場外に持ち出し、ミツバチがハウス内に入らないようにする。(導入可能日数は防除のてびき P520~P524 参照)。</p>						
キュウリ	べと病		並	並	180~181	 キュウリ 黄化えそ病
	うどんこ病		並	並	178~179	
	褐斑病		並	並	183~184	
	アザミウマ類		並	並	193	
	コナジラミ類		並	並	192	
<p>1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 媒介虫の薬剤防除を徹底するとともに、ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分する。</p>						

作物名	病虫害名 ^{注1)}	1月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
トマト	葉かび病	やや少	並	228~229	 トマト 灰色かび病
	灰色かび病	やや少	やや少	223~224	
	コナジラミ類	やや少	やや少	152~154 231~233	
	1. タバココナジラミ：黄化葉巻病 ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、タバココナジラミの防除を徹底する。				
アスパラガス	1. 茎枯病、褐斑病、斑点病、アザミウマ類、ハダニ類 これら病虫害を次作に持ち越さないため、茎葉刈取後の残さは圃場外へ持ち出し適切に処分する。また、灌水チューブに付着した泥、残さをほうき等で除去するとともに、圃場全面をバーナーで丁寧に焼却する。				
キク	白さび病	並	並	377~378	 白さび病
	アザミウマ類	やや多	やや多	382~383	
	アブラムシ類	並	並	384~385	
	ハダニ類	並	並	383~384	
	ハモグリバエ類	並	並	386~387	
	1. アザミウマ類 施設内外の雑草は、本虫の発生源となるため除去する。また、次作での発生を抑えるため、定植前~定植時の粒剤施用を実施する。				

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～2 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
4 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

1 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 1 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 2 年 12 月 17 日）を基に、「気温：平年より低い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 1 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	50	30 (5.4℃)	20	低
降水量	40	30 (56.7 mm)	30	並

Ⅲ. 1月の予報

タマネギ

定期調査 24 圃場
調査日：12月16～18日



定期調査の圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

【早生マルチ】発生量：平年並（前年並）

【中 晩 生】発生量：平年並（前年並）

（1月に発病することはまれであるが、本圃で感染するリスクがある）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1、図2）

【早生マルチ】 発生株率：0%（平年0%、前年0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）

【中 晩 生】 発生株率：0%（平年0%、前年0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）

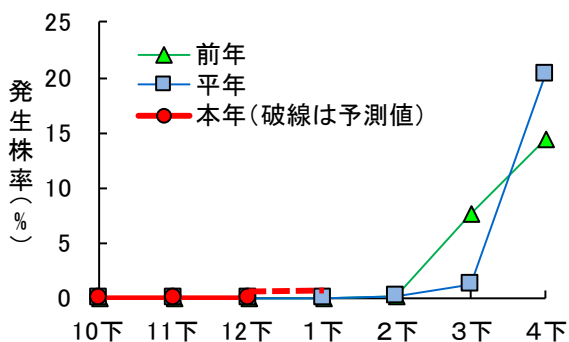


図1 早生タマネギでのべと病の発生推移

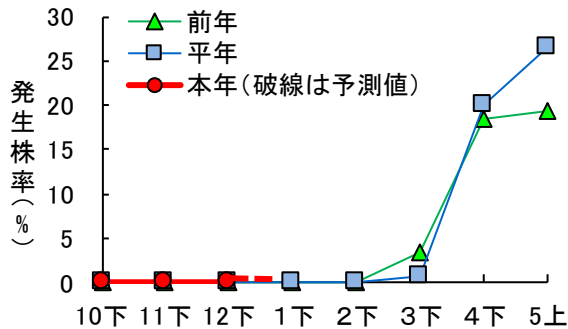


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

(2) 圃場の菌密度

近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いと推察される。（±～+）

(3) 1月の気象条件

降水量は並で、並発生の条件。（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

イチゴ（本圃）

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場
調査日：12月15～21日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：37.5%（平年9.6%、前年25.0%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(3) 防除上注意すべき事項

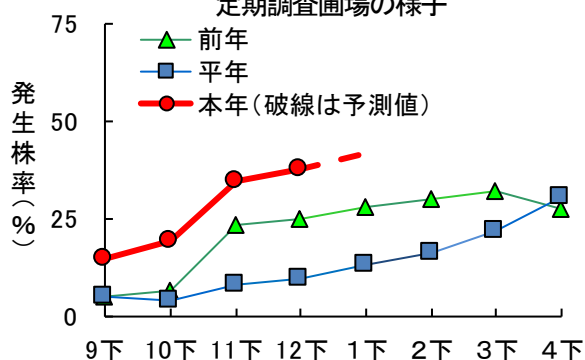


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

- (1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。
- (2) その他については、特記事項を参照。

2. うどんこ病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年6.3%、前年0.6%）
平年比：やや少（-〜±） 前年比：並（±）
 - (2) 1月の気象予報
降水量が並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 約10～14日間隔の薬剤防除を徹底する。「さがほのか」では、薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。
 - (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

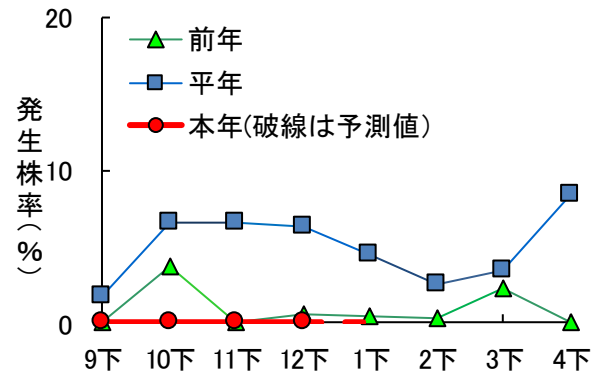


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：0.5%（平年0.2%、前年0.4%）
平年比：やや多（±〜+） 前年比：並（±）
 - (2) 1月の気象予報
降水量が並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 「いちごさん」では受粉後の花卉が外れにくいいため、果実での被害が発生しやすい。ブローア等を用い定期的に花卉を除去する。
 - (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

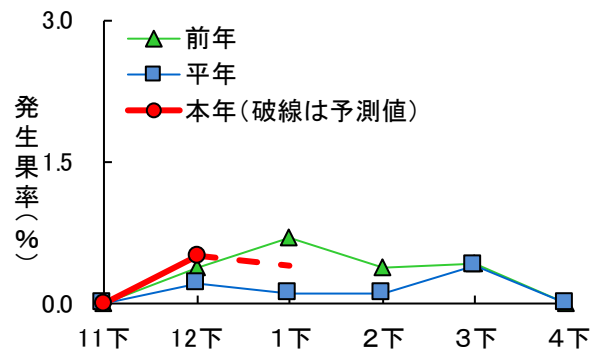


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

4. アブラムシ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：4.8%（平年0.6%、前年0.9%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P520～524）。

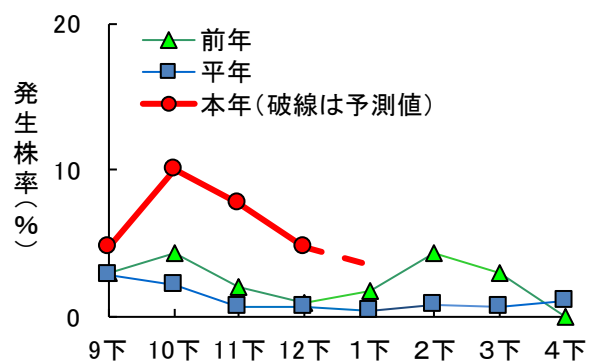


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

定期調査 5 圃場、防除員 4 圃場
調査日：12 月 15～17 日



定期調査圃場の様子

1. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 定期調査（図 1 参照）
発生株率：2.8%（平年 4.0%、前年 3.3%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

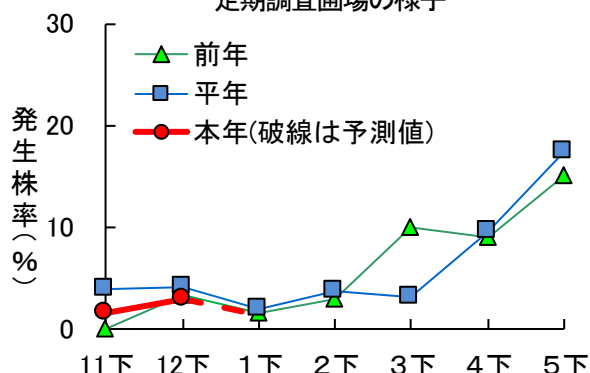


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

トマト

定期調査：6 圃場、防除員 4 圃場
調査日：12 月 15～16 日



定期調査圃場の様子

1. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 定期調査（図 1 参照）
発生株率：0.5%（平年 4.0%、前年 3.5%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：やや少（-～±）
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

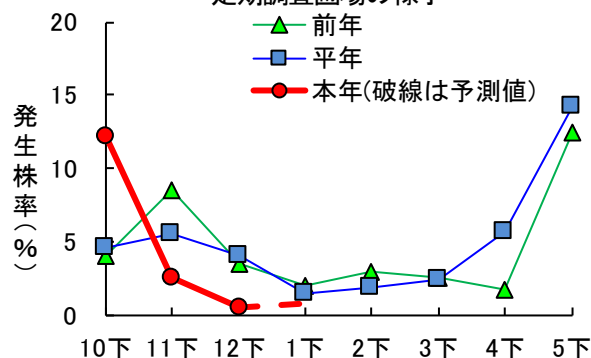


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

キク

定期調査：8 圃場
調査日：12 月 15～17 日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 定期調査（図 1 参照）
発生株率 0%（平年 5.5%、前年 2.3%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
② 1月の気象予報
降水量は並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 薬剤は、葉裏や下位葉にもかかるように十分量を丁寧に散布する。

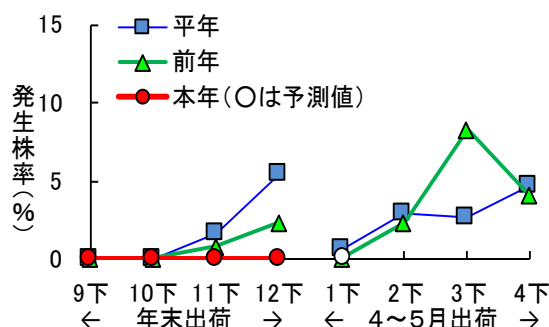


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類 (クダハアザミウマ、ミナキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 3.8% (平年 1.4%、前年 1.3%)

平年比：多<+> 前年比：多<+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

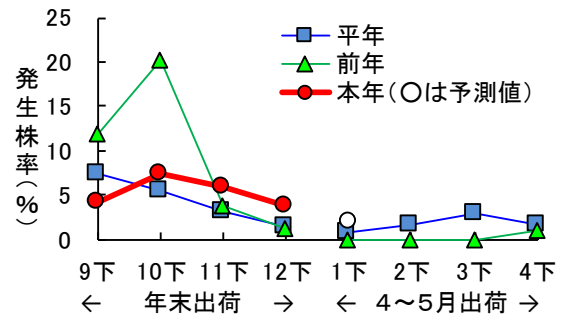


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi_jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

